

## 小型模擬人工衛星 学生が性能を競う 日本文理大で大会



模擬人工衛星の性能を競う学生ら＝大分市一木の日本文理大

学生が作った小型模擬人工衛星の性能を競う大会が12日、大分市一木の日本文理大であった。

主催する同大の工学部航空宇宙工学科、新居浜高専(愛媛県)など九州・四国の大学、高専から計8チームが出場した。模擬衛星は小型衛星と類似の技術で開発し、GPS(衛星利用測位システム)や記録装置を搭載。小さな筒(内径14・6センチ、高さ24センチ)に収納している。クレーンで高さ約40センチ

つり下げた筒から衛星を放出。パラシュートや自力飛行で50メートル先にある地上の目標物に近づける技術力を競った。制御履歴を確認し、指示通りに動いたかも審査した。出場した同学科2年の西本れおなさん(20)は「宇宙開発にとっても興味がある。貴重な経験になった」と話した。

大会は来年、別府市である「第33回宇宙技術および科学の国際シンポジウム」のプレイベントとして開いた。(小川夏生)